

サクラマス釣りフォーラム開催

平成19年2月25日天童市の天童ホテルでサクラマス釣りフォーラムが開催されました。

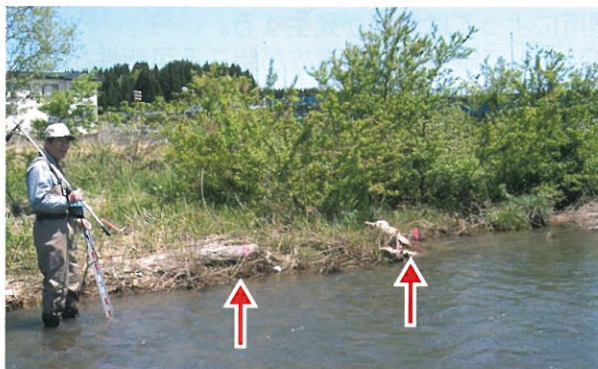
当場の大井資源調査部長が「山形県におけるサクラマスの現状と課題」と題して、基調講演し、それを踏まえて、サクラマス釣り愛好者や漁協関係者などにより、パネルディスカッションが行われました。

年々減少している県の魚サクラマスを再生させるには、サクラマスが自然再生産できる河川環境づくりが大切、釣るだけでなく保護することも必要、釣り人のマナー向上や地域住民との対話も課題などの意見が出され、今後の関係者の具体的な取り組みが期待されます。



サクラマスの仔稚魚の生息環境は？

真室川で調査を行いました。3月と5月は、サクラマスの稚魚は川岸の植生のあるほとんど流れのない場所に生息しており(写真で赤い矢印で指してある場所)、流速14cm/s、水深20cm、河床が砂～直径5cmの石のある場所が5月の平均的な生息環境でした。7月には、川岸から6.8m離れた場所でみつき、流速も水深も大きい場所に生息場所を変え、アユやウグイ成魚など一緒に生息しており、流速65cm/s、水深43cm、河床が直径約10cmの石の場所が生息環境でした。



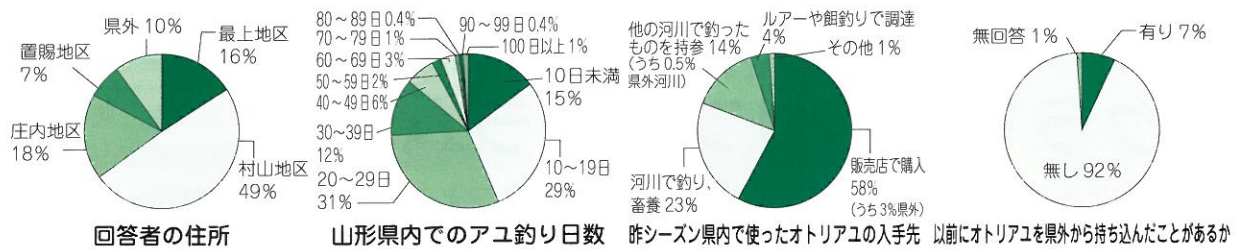
▲5月の生息場所(赤い矢印で指してある場所で見つかりました)



▲7月は瀬に生息場所を変えていました

アユ釣りに関するアンケート調査結果について

前号では、全国的に蔓延し被害が出ているアユ冷水病について、概要をお伝えしました。平成18年度、山形県内水面漁業協同組合連合会にご協力いただき、釣り人を対象にアユ釣りについてアンケート調査を行いましたので、その一部を紹介します(女性2名、男性227名、計229名が回答(回収率76.3%))。



・ 県内オトリアユ販売店の評価 ・

○販売店の場所について

河川によっては販売店の場所がわかりづらい
販売場所が川から遠い場合がある など

○販売時間帯・時期について

早朝に販売していない
9月に入ると販売していないことが多い など

○販売店の見つけにくさについて

看板やのぼり旗が少ない
河川近くで購入できるようにしてほしい
販売店の地図と電話番号一覧がほしい など

○販売しているオトリアユについて

品切れしていることがある
店によっては産地不明
病魚を販売しているところがある
オトリアユの管理状態がわるい店がある
オトリアユを選ばせない店が多い
天然・養殖の別を明記してほしい
川と販売店の水槽の温度差が大きい場合がある など

○販売店の数について

販売店が少ない(特に置賜や庄内)

アンケート結果の内容は県内関係者等にお知らせし、今後に役立てていきます。

暖冬による内水面漁業・養殖業への影響について

◆生態系では…

- 春**
- 融雪が急に進み、河川水や湧水が一時的に酸性化する。
 - 田に水を引くため、河川水が減少し、水温が急上昇する。また、田から戻る水の水温も高くなる。
 - 融雪による増水が短期間で終わり、小支流の水が枯れ、渓流魚の生息域が狭くなる。餌の競争も予想される。
- 夏**
- 渇水による水温の上昇、DOやpHの変化、有機物や汚染物質の濃度が上昇する。
 - 高水温に耐えられる魚種以外は、生息が難しくなる水域が出現する可能性がある。
 - 水量が少ない河川では、富栄養化が進み、場所によっては悪臭が発生する。
 - 高水温のダム水放流による急激な水温やDOの変化で魚類の斃死事故が起こる可能性がある。

◆アユでは…

遡上期に水量が減少し、本来は遡上可能な堰堤を上れなくなったり、魚道の通過が困難になる恐れがある。定着期に水域の面積が縮小し、餌となる藻類が生息する石の表面に浮泥が沈着しやすくなるため、アユの成育が低下し、漁業・遊漁に影響が出る。

◆サクラマスでは…

河川における越夏域である深い淵の減少や遡上可能な支流・小支流の減少が予想される。

◆マス類の養殖では…

夏期の水温上昇による生産量の低下、疾病の発生が懸念される。

◆その他…

湖沼・河川等において、水温の上昇期が早まり、「コイヘルペスウィルス病」の発生の早期化が予想される。など心配な事が多いと考えられますので、注意を怠らず、対応策を考えておく必要があります。

コイヘルペスウイルス病(KHVD)の発生状況

平成18年(1月1日から12月31日まで)の発生件数は3件でした。平成16年-69件、17年-16件、18年-3件と大きく減少しています。しかし、感染源となりうる感染耐過魚は、広く存在すると考えられますので今後とも注意が必要です。

水カビ防止剤「パイセス」の循環式薬浴

今回は、マス類の卵消毒剤パイセスの循環式薬浴法についてお話しします。

用法・用量

受精後24時間から発眼するまで、1日1回30分間、用水10ℓに対してパイセス1mℓの割合(=1万倍希釈)で加えて、循環薬浴します。

実際の使用方法

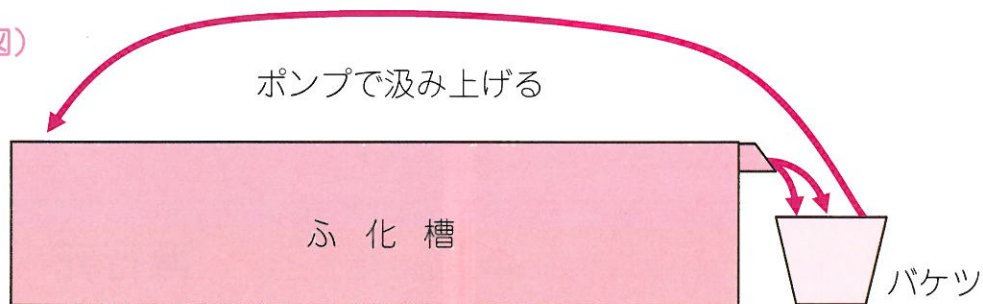
- ①風呂の残り湯を洗濯機に汲み上げる際などに使用される、小型のポンプを用意します。
- ②ふ化槽の排水を一旦バケツなどで受けます。
- ③そのバケツに小型ポンプを設置し、ポンプの汲み上げる水をふ化槽の注水部に戻るようにします。(略図)
- ④ふ化槽への注水を止め、ポンプを稼働させ、水を循環させます。
- ⑤ふ化槽全体に必要な量のパイセスを加え、パイセスが均一になるまで10~15分間、それから更に30分間薬浴させます。(計40~45分間)
- ⑥薬浴終了後、ポンプを止め、ふ化槽への注水を再開します。
- ⑦ふ化槽から出てくる排水が規定の濃度に薄まるように排水します。

使用上の注意点

前回は述べましたが、パイセスは原液のままでは水生生物に対して大変有害です。使用時に1万倍に薄めたものを、排水時に更に3,333倍に薄めて(=15μg/ℓ未満)やっとな影響が無い濃度になります。無色透明なのでわかりにくいですが、きちんと薄めて排水しなければなりません。また、パイセスの排水が下流の稚魚池、親魚池などに入らないようにしなければなりません。使用上の注意をよく読み、用法用量を守って正しく使いましょう。



(略 図)



不明な点は、下記担当にお問合せください。
担当：高橋・大川 TEL：0238 - 38 - 3214

カワウ対策を実施しています

カワウとは？

湖・川や海岸でみられ、潜水して魚を捕食する野鳥です。群れて行動することが多く、木の上に営巣する習性を持っています。成鳥で体長80～90cm、体重1.4～2.4kgとなり、1日に300～500gの魚を食べます。1980年代以降、個体数が増加し、滋賀県の琵琶湖、近隣では福島県の河川で深刻な漁業被害が発生しています。

山形県内では？

県内では、平成16年の当場の調査で多い月でも十数羽のカワウが観察されたにすぎませんでした。平成18年10月に実施された内水面漁業協同組合連合会による一斉飛来調査では、約300羽が観察され、また、集団営巣地(コロニー)も複数確認されており、生息数を抑制しなければ、深刻な漁業被害が生じてもおかしくない事態になってきました。

対策は？

関係漁業協同組合により県知事の許可を得て銃器による駆除、追い払い等の活動が始まっています。

当場では、今年から駆除個体の胃内容物を調べ、カワウが食べる魚の種類や量などから食害の実態を明らかにする調査を開始しました。



▲カワウのコロニー(長井市)

▲カワウ1羽の胃の中から見付かった魚類

イバラトミヨの生息個体数は？

平成16年から平成18年の秋に、東根市の小見川でイバラトミヨ特殊型の生息個体数を調査した結果、平成16年は約1500尾、平成17年は約1800尾、平成18年は約1000尾と推定され、生息密度は3年とも1尾/㎡程度でした。

イバラトミヨ特殊型の寿命は1年なので、この数値は3年とも違う群れのもので、毎年、安定した数のイバラトミヨ特殊型が生まれていると考えられました。

イバラトミヨの生息個体数調べ▶



編集後記

この度、内水試ニュース「うろこきらり」の第2号を発行することとしました。内容等につきまして、ぜひ皆様方のご意見をお寄せ下さいますようお願い申し上げます。(場長)

発行元

山形県内水面水産試験場

〒992-0063 米沢市泉町一丁目4-12
TEL: 0238-38-3214 FAX: 0238-38-3216
<http://www.pref.yamagata.jp/ou/norinsuisan/145011/>